

地域ケア会議

～令和3年度実績報告及び課題報告～

令和5年2月9日(木)

小牧市 福祉部 地域包括ケア推進課

■地域ケア会議とは

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、**地域包括ケアシステムの実現**に向けた手法。

具体的には、地域包括支援センター等が主催し、

- **医療、介護等の多職種が協働して**高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める。
- 個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を明確化する。
- 共有された地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげる。

※地域ケア会議の参加者や規模は、検討内容によって異なる。

(厚生労働省ホームページ「地域包括ケアシステム」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/「地域ケア会議の概要」から抜粋)

■地域ケア会議の目的

ア 個別ケースの支援内容の検討を通じた、

- (i) 地域の介護支援専門員の、法の理念に基づいた高齢者の自立支援に資するケアマネジメントの支援
- (ii) 高齢者の実態把握や課題解決のための地域包括支援ネットワークの構築
- (iii) 個別ケースの課題分析等を行うことによる地域課題の把握

イ 地域づくり、資源開発並びに政策形成など、地域の実情に応じて必要と認められる事項

(平成18年10月18日老計発第1018001号／老振発第1018001号／老老発第1018001号/各都道府県・各指定都市各中核市介護保険主管部(局)長あて厚生労働省老健局計画課長・振興課長・老人保健課長通知より抜粋)

■地域ケア会議の機能

ア 個別課題の解決

多職種が協働して個別ケースの支援内容を検討することによって、高齢者の課題解決を支援するとともに介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める機能

イ 地域包括支援ネットワークの構築

高齢者の実態把握や課題解決を図るため、地域の関係機関等の相互の連携を高め地域包括支援ネットワークを構築する機能

ウ 地域課題の発見

個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより地域に共通した課題を浮き彫りにする機能

エ 地域づくり・資源開発

インフォーマルサービスや地域の見守りネットワークなど地域に必要な資源を開発する機能

オ 政策の形成

地域に必要な取組を明らかにし、政策を立案・提言していく機能

(平成18年10月18日老計発第1018001号／老振発第1018001号／老老発第1018001号/各都道府県・各指定都市各中核市介護保険主管部(局)長あて厚生労働省老健局計画課長・振興課長・老人保健課長通知より抜粋)

■地域ケア会議

(1) 小牧市の地域ケア会議

- ①小牧市在宅医療・介護連携推進協議会
- ②多職種連携カンファレンス
- ③ふくし座談会
- ④ケアマネジメント支援会議
- ⑤個別地域ケア会議

(2) 個別地域ケア会議で抽出された課題と評価

- ①抽出された課題に対する評価の実施
- ②令和3年度の評価の傾向
- ③令和3年度に地域ケア会議で出された主な課題

(参考) 個別地域ケア会議の評価

(1) 小牧市の地域ケア会議

①小牧市在宅医療・介護連携推進協議会

地域包括ケア推進課が主催。他の地域ケア会議で抽出された課題の評価・検証を行う。

②多職種連携カンファレンス

介護保険課が主催する事例検討会。自立支援型カンファレンスと、重度化防止型カンファレンスを実施している。

※重度化防止型カンファレンスは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

令和3年度の開催状況		
第1回 R3.7.15	自立支援型カンファレンス ①在宅生活を継続したい身寄りのない一人暮らしの方のケース ②在宅生活を継続したい視力が進行的に低下している方のケース	①味岡地域包括支援センター 金田 泰丈 氏 ②篠岡地域包括支援センター 増田 英里 氏
第2回 R3.10.14	自立支援型カンファレンス ①パーキンソン病の進行を抑えながら在宅生活の継続を目指す方のケース ②食事量低下と体重減少が懸念される体力の衰えがみられる方のケース	①南部地域包括支援センター 川中 麻里 氏 ②北里地域包括支援センター 佐藤 弘美 氏
第3回 R3.11.18	自立支援型カンファレンス ①I型糖尿病による血糖コントロールに悩む、人との交流が必要な方のケース ②地元の方との交流が少ない、半身麻痺で移動困難な方のケース	①小牧地域包括支援センター 桐林 加穂子 氏 ②小牧地域包括支援センター 伊藤 孝 氏

(1) 小牧市の地域ケア会議

③ ふくし座談会

区長、民生委員、地域支え合い推進員、行政職員、住民等とそれぞれの地域のニーズや課題、今後の地域のあり方について話し合い、課題解決に向けた取り組みなどを協議する場。

令和3年度の開催状況	
ふくし座談会の実施回数【区単位】	8回
ふくし座談会の実施回数【小学校区単位】	3回

④ ケアマネジメント支援会議（旧：事業者交流会）

地域包括支援センター会議のケアマネジメント推進部会が開催。各分野のアドバイザーを招聘し、意見交換や困難事例に対する助言を得ている。

令和3年度の開催状況		
第1回 R3.9.13 R3.12.17	認知症について	20名 33名

(1) 小牧市の地域ケア会議

⑤ 個別地域ケア会議

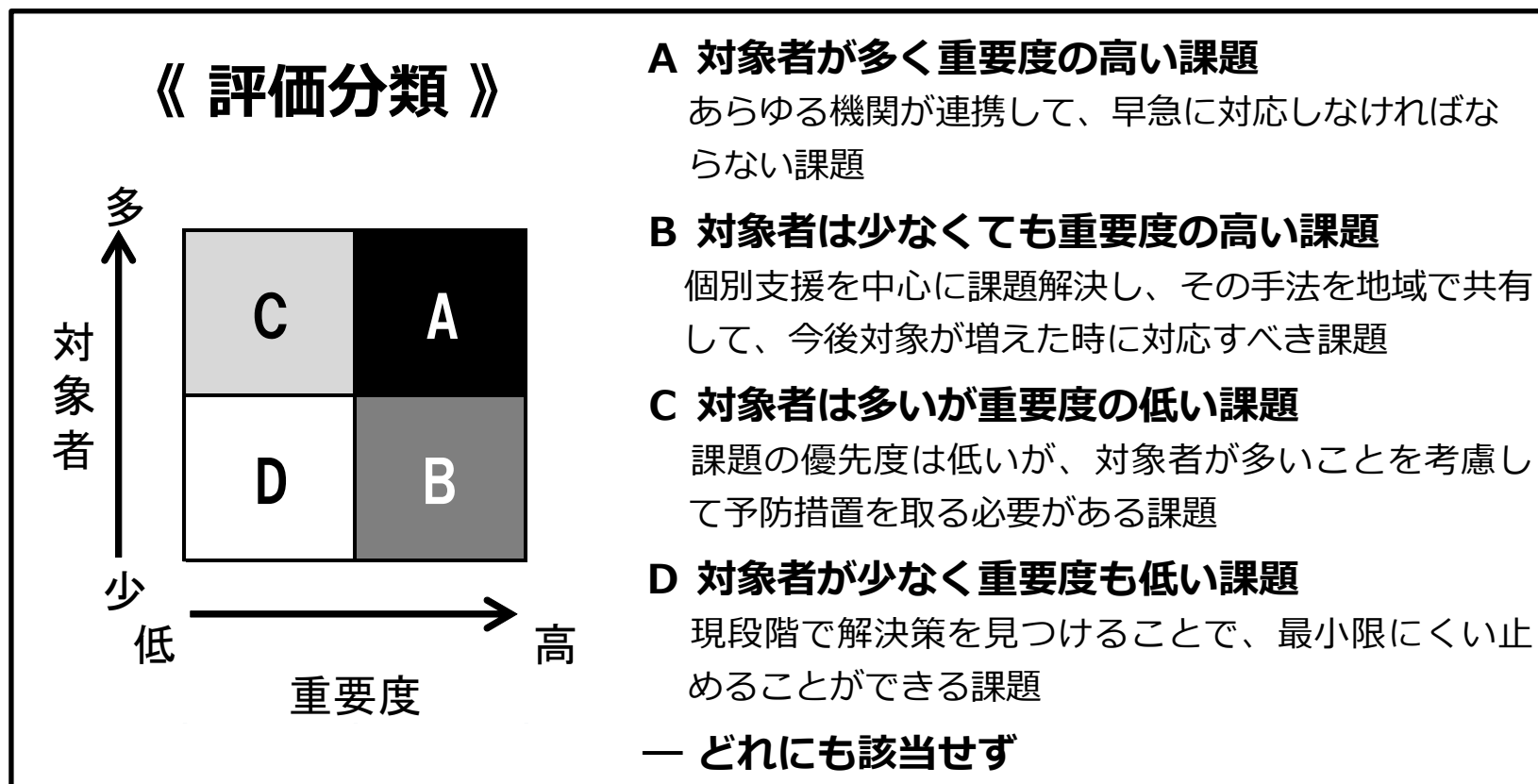
地域包括支援センターが主催。支援困難な事例について、さまざまな専門職種や区長、民生委員、近隣住民、行政などが参加し、支援方法の検討や事例検討を行う「個別地域ケア会議」、地域の方からニーズを掘り起こすための「圏域地域ケア会議」を開催して、課題の抽出を行う。

令和3年度の開催状況						
	地域包括支援センター					合計
	南部	小牧	味岡	篠岡	北里	
個別	11	6	7	5	12	41
圏域	2	2	2	3	2	11
合計	13	8	9	8	14	52

(2) 個別地域ケア会議で抽出された課題と評価

①抽出された課題に対する評価の実施

- 令和3年度に実施した個別地域ケア会議について、支援対象者ごとに課題を抽出。会議主催者である地域包括支援センターの管理者および担当者により、『抽出した課題に当てはまる対象者の多寡』とその『重要度』について評価を行った。



(2) 個別ケア会議で抽出された課題と評価

②令和3年度の評価の傾向

- ・令和3年度の個別ケア会議から抽出された課題のうち、「A 対象者が多く重要度の高い課題」は10件、「B 対象者は少なくとも重要度の高い課題」は28件となっており、**重要度の高い課題**は計38件であった。
- ・A評価の課題として抽出されたものは、「認知症の人の見守りや支援」「ひとり暮らし・身寄りがない」「本人以外にも支援の必要な家族がいる」などの意見が複数見受けられた。
- ・B評価の課題としては、上記項目に加えて「精神疾患がある方への対応」「権利擁護・成年後見」「金銭・服薬管理」「ごみ屋敷」「地域活動の担い手の不足」「高齢者虐待」などが挙げられた。

会議で抽出された課題は、複合・複雑化しているケースが多く、適切な受診に繋げにくい環境があったり、地域での見守りや支援を必要とするケースが報告されている。

(2) 個別ケア会議で抽出された課題と評価

【令和3年度に地域ケア会議で出された主な課題】

- ①認知症の人の見守り体制
- ②一人暮らしや身寄りのない人への支援
- ③複合的な課題を抱えた世帯への支援

(参考) 個別地域ケア会議の評価

		個別地域ケア会議の評価					
		地域包括支援センター					合計
		南部	小牧	味岡	篠岡	北里	
評価	A	3	0	6	0	1	10
	B	7	4	3	4	10	28
	C	1	3	0	0	0	4
	D	1	1	0	0	0	2
	—	0	0	0	0	0	0
合計		12	8	9	4	11	44

課題の概要は資料2-2,2-3「令和3年度個別地域ケア会議評価シート」をご参照ください。